



JUSTICE

ジェイアール・イーストユニオン
発行者 菅野 一位 部
編集者 教 宣 部
〒105-0021
東京都港区東新橋2-8-28
TEL(JR) 057-7333
TEL(NTT) 03-6452-9687
ホームページ検索
「JREユニオン」

基本理念

1. 社員で考え、社員のための労働運動を目指す 企業内労働組合
2. 心とこころをつなぐ相互扶助活動と、次代につなぐ社会正義の実現を目指す

自らを変える!! 明日を創る!! イーストイノベーション

第5回 中央委員会

職場討議資料

はじめに(略)
経過報告(略)

私たちが取り巻く情勢(略)

1. 安手の活動方針(案)

私たちは事故の重大性を鑑み『命を守る』究極の安全の確立に全組合員で取り組むと共に、私たちが長

年、努力・研鑽し培ってきたスキルを次世代に継承することが急務になっていきます。日本は少子高齢化が進み生産年齢人口の減少が顕著に表れています。このような中、会社は矢継ぎ早に様々な施策を提案し、また実施しています。これからの30年を見据え、会社の持続的な発展や安定経営、安全・安定輸送の確保等の施策は

一定の理解はするものの、「安全」が本当に担保されたものなのか疑問を感じざるを得ません。遅々として進まない「技術継承・人材育成」の問題、最近の事故を見ると建築業界に支障する事故や確認等話不足による運転支障等、基本的な事故・事象が多くなっています。このような事故が多発すれば、お客様からの信頼を得ることが出来ません。

会社は安全をトッププライオリティと位置づけ「グループ安全計画2023」を策定し、その中に大きな三つの柱を掲げました。一つ目として「一人ひとりの『安全行動』の進化と変革」、二つ目に「『安全マネジメント』の進化と変革」、三つ目に「新たな技術を積極的に活用した安全設備の整備」を、社員一人ひとりと「安全マネジメント」が一体となり「究極の安全」を追求するとしています。

「究極の安全」それは、労使双方が目指すものは同じです。しかし、安全について経営側と現場では、意識の違い認識の乖離があることは私たちが一番感じていることだと言えます。「安全の確立」についての妥協はありません。

これからも「技術継承・人材育成」問題も含め「教育・訓練のあり方」について

でも、更に議論を重ね会社に投げかけていきます。また、現場においても若手に伝え、現場管理者と議論していかなければ、安全最優先の企業風土・職場風土は構築できません。

JR連合は、「安全の確立」を最重要課題に位置づけ、「働く者の安全確保がひいては鉄道全体の安全性向上につながる」との認識にたち「お客様の死傷事故とすべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を最重要テーマに掲げて、これからの活動を進めます。

「ヒューマンエラー」は結果であり原因ではない」との基本理念のもと、私たちは今後もJR連合の各種集会や委員会に積極的に参画し、私たちの考えを伝えるとともに、安全の確立に向けた取り組みを強化していきます。

具体的には

①安全の確保に向け「教育・訓練のあり方」「技術継承・人材育成」の問題について、粘り強く交渉を重ねていきます。

②経営協議会・団体交渉など、労使協議の場を通じ積極的かつ建設的に議論をしていきます。

③JR連合主催の「安全シンポジウム」等や、各種委員会や集会上に積極的に参加をし、安全の取り組みをさらに高度化させます。

2. 民主化闘争・組織強化拡大の取り組み(案)

(1) それでも「前へ!」、仲間の声を大切に、さらに元気の出る運動の展開について

労働運動をさらに一歩進める為、仲間同士の信頼と結びつきを強靱なものにし会社内における一定の影響力を格段に強化することによって、要求実現と組織拡大強化の好循環、相乗効果を創り出していきます。

具体的には

①仲間と共に「こういうことができる組織・運動にしよう」という夢を語りあうことをこと。さらに実現可能なとする目的や目標を明らかにした運動を展開します。

②「要求を共に創り上げる」事を通して信頼関係を醸成し、さらに仲間の輪を広げ増やす運動を展開します。この間、疲弊し、変質してしまつた施策・制度について実態を調査し現状に適したものとすするために運動を構築していきます。

③仲間が「集まる」「議論する」ことにこだわった運動を展開します。

④私たちの求める労働政策、安全課題、社会的運動についてJR連合の仲間と共に学び社会に訴える運動を展開していきます。

⑤組合員一人ひとりを大切にする運動を展開し、労働

スローガン

安全の確立と、民主的企業内労働組合の構築に向け、全組合員で組織拡大を加速させ、民主化闘争を完遂しよう!

サブスローガン(案)

1. 安全最優先の職場風土の深度化を図り、JR連合「安全指針」を軸に、「お客さまの死傷事故、すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を達成しよう!
2. 次の新たな歴史を創るため、安心してご利用いただける鉄道をめざし、安全の確立はもとより、JR東日本にあるべき労使関係の構図を描き・築き上げ、社会の厚い信頼を獲得しよう
3. 私たちの、明日を創造する運動の積み重ねで、ビッグイノベーションを確固たるものとし、今こそ組織拡大を成し遂げ、民主化闘争の完遂、JR連合10万人の目標を達成しよう!
4. 2019春季生活闘争に勝利し、「連合」に参集する仲間の連帯で、「働くことを軸とした安心社会」の構築をめざすため、雇用を守り、労働者の尊厳を高める労働条件の維持・向上をさらに推し進めて行こう!
5. JREユニオンの総力を挙げて推薦候補者の支援に取り組み、第19回統一地方選挙、第25回参議院議員選挙に勝利し、勤労者・生活者のための政治を取り戻そう!

運動への信頼と結びつきを強化していきます。

⑥ JR連合の提唱する「あ

るべき労働組合像 労使

関係像」について自信を

持つて他労組組合員に訴

える行動を展開します。

(2) 仲間を点から線へ、

そして面に、個から組織

へと高める運動について

組織の現状をしっかりと

開します。

⑥ 労働組合の存在の意義

と私たちの理想、新しい

労働運動「イノベーショ

ン」を共に創り上げる事

を他労組組合員、無所属

社員に要請する運動を展

開します。

⑦ 「one」運動を強化し、

さらにそのキーマンの中

する為あらゆる手段を講

じた運動を展開します。

③ JR Eユニオンの存在

の認知度を高めるためS

NSを活用した運動を展

開します。

④ 組合員や仲間の抱えて

いる悩みや変化に即応す

べく積極的に世話役活動

に取り組んでいきます。

(4) 退職者連絡会活動の

具体的展開について

JR退職後の安心・安定

社会を構築し、生き甲斐

のある社会を創造します。

さらに、いつまでも仲間

との絆を大切にし、その

輪を一層大きなものとす

るための運動の創造に寄

与します。

度円滑な継続をはじめ、

教育制度を引き続き充実

させていきます。

具体的には

① 東労組に問題意識無く

参加している青年層に目

標を設定し、様々な問題提

起をします。

② 他労組の青年層との交

流の場を創造していきま

り組みを図っていきます。

そのためにも単年度の春

季生活闘争の丁寧な積み

重ねと継続が必要です。

賃金をはじめとして、ワー

ク・ライフ・バランスの

実現、働きがいある労働

条件を求め、労働時間や

休日、休暇といった労働

条件を構成するすべての

項目を点検し改善を図る

「総合生活改善闘争」と

して、全組合員が一丸と

なった取組みを進めるこ

ととします。

① 働きがいある会社、労

働条件の向上をめざして

人材の確保が喫緊の課

題となる中で、基本的な

は、JR東日本グループ全

① 「A作戦」「M作戦」に

ついて全組合員が継続的に

運動を展開していきます。

② 個人的な運動を強化し

他労組組合員、組合無所

属社員との連携を強化し

ます。組合員Ⅱ地本Ⅱ本

部の紐帯を強化し「ひと

りだけ運動」を廃し、組

織の一体感を感じられる

運動を構築します。

③ 「組織対策委員会」を

適宜開催し組織拡大運動

の具体策について策定と

効果の確認を行います。

④ 本部主催のレクは目的

意識を強く持った実行委

員会方式で展開していき

ます。

⑤ 各地方と共にターゲット

トを絞った拡大運動を展

開します。

⑥ 労働組合の存在の意義

と私たちの理想、新しい

労働運動「イノベーショ

ン」を共に創り上げる事

を他労組組合員、無所属

社員に要請する運動を展

開します。

⑦ 「one」運動を強化し、

さらにそのキーマンの中

心としての拡大運動であ

る「one more」「two mor

e」運動を展開します。

(3) 新しい労働運動を創

出し、組織の一層の躍進

と強化を図る取り組み

自らが創り出した情勢

に一層の拍車をかけ、会

社の正常化を求める仲間

や青年・女性などあらゆる

階層の仲間を視野に、

「目に見える」運動の強

化を図っていきます。ま

た、相互理解を目的とし

る旺盛な「総対話運動」

の展開などによって組織

拡大をはかります。さら

に単発的運動から運動の

反復化によって運動の深

度化を図ります。

具体的には

① JR連合との連携を密に

し「民主化共闘会議」の

決定を徹底し、JR連合傘

下の各組織と連動した運

動を展開します。

② JR東日本において責任

の持てる組織をめざし運

動的な拡大目標を達成

ます。

具体的には

① JR連合との連携を密に

し「民主化共闘会議」の

決定を徹底し、JR連合傘

下の各組織と連動した運

動を展開します。

② JR東日本において責任

の持てる組織をめざし運

動的な拡大目標を達成

有用な人材の確保のためには働き方の見直し、多様な働き方の選択肢の充実、ワーク・ライフ・バランス、仕事と生活の調和が必要であり、それは『明日への投資』であるとし、協議を通じて議論を深めていきます。

② 安全の確立に向けて 交渉にあたっては、人材育成・技術継承問題についても念頭に置き、安全の確立を訴えていきます。常に、安全を最優先の取り組みとする考え方を基本とし、会社との認識を一致させるとともに、十分なチェック機能をはたしていきます。

(2) JR東日本にJR連合を代表する組合として

私たちはJR東日本において、産別を代表する「イースト春闘」の構築をめざすとともに、あわせて、JR東日本の民主化を実現すべく、あらゆる運動を連動し、組織拡大に繋げていかなければなりません。さらに現状を大きく変革する真のパートナーとなるための闘いを押し進めていくことが必要です。私たちの掲げる「イーストイノベーション」を、確固たるものにしていくため、総力を結集した取り組みで、組織拡大をめざしていきます。

た、JR東労組の瓦解が進んだことで、決して、極左的な運動やイデオロギーが無くなったわけではありませんが、私たちは、さらに労働組合の意義、真の労働組合運動の必要性を訴えることが必要となっています。雇用を守り、労働条件の向上を求めるあたり前な運動を進めるとともに、JR連合運動の継承、JR東日本の健全な発展をめざし、JR東日本の民主化実現を成し遂げるため、一丸となって邁進して参ります。19春闘に向けては、こうした課題・情勢等を踏まえ、さらに真の労働組合たる存在を内外に示しながら、組織の強化・拡大をめざしていきます。

(3) 情勢と具体的な要求のあり方について

日本経済は、各種経済指標が示すように回復基調が継続していますが、国内総生産（GDP）や実質賃金、GDPの約6割を占める個人消費は依然として伸び悩んでおり、多くの労働者が景気回復を実感できていない状況が続いています。併せて、国際経済のリスクも危惧されており注視していかねばなりません。また、近未来的には、第4次産業革命の到来による技術革新の加速化や、働き方改革関連法の施行、10月の消費税引き上げなど、グロ

バル化した社会・経済の中で、今後私たちが取り巻く環境は大きく変化することが考えられます。それに加えて雇用情勢は有効求人倍率が高止まりで推移するなど、労働力不足を背景にした「売り手市場」が継続し、企業間における採用競争の激化が深刻な社会問題にもなっています。このように先行きは予測困難な状況のなかであるからこそ、経済の好循環を創り出し、日本の国際競争力・経済力を高めるためにも、賃金引き上げが不可欠であることは言うまでもなく、企業への社会的要請ともなっています。2019春季生活闘争においては、労働組合が社会・経済の構造的な問題解決を図る「牽引役」としての役割を果たし、存在意義を高め、未組織を含めた労働者の総結集を図る機会と捉え、取り組む必要があります。

JR東日本においては、第2四半期決算では、単体は増収減益、営業収益・運輸収入が7期連続の増収かつ、第2四半期決算としては過去最高となるとともに、連結決算については増収増益、営業収益は7期連続の増収かつ、第2四半期としては過去最高。経常利益、四半期純利益が過去最高となりました。（中略）

消費増税による景気の後退など、抱える大きな課題は山積しています。人材の確保が大きな課題となっており、これも事実であり、そのためにも、働き方の見直し、多様な働き方の選択肢の充実、ワーク・ライフ・バランス、仕事と生活の調和等、労働条件の向上に資する議論・検討が重要となっています。生産性の向上は言うまでもなく、さらに環境変化への対応、イノベーションの促進など言われていきます。インバウンド需要の拡大を目指す中で、昨年は訪日外国人の数が3,000万人を超えました。また、本年は、ラグビーワールドカップ日本大会と、さらには、2020オリンピック・パラリンピックの開催、品川開発プロジェクトなど、業績拡大の要素も考えられるなか、更に生産性向上をめざしながら、その上で、労働分配率を高めるために私たち労働者への還元を求めていくことが重要です。

「19イースト春闘」要求については、JR連合の春闘方針に基づき、「統一ベア要求」のほか、総合生活改善闘争として、特に月例賃金の引き上げに拘る「諸労働条件の改善・向上」を要求していくこととします。要求額については統一ベア要求、「3,000円」を掲げ、諸手当等改善要求を含む「月例賃金総額

6,000円以上の引き上げ」をめざします。併せて、「夏季手当要求」については、「3,2ヵ月分」の要求を確立していきます。また、回答指定日については、連合が設定した春闘のヤマ場、第1先行組合回答ゾーン3月11日（月）～15日（金）のなかで設定することとします。

4. 政策活動について 5. 教員活動について 6. 政治活動について

今後の政治活動については、JR連合「チーム公共交通」「チーム地域共創」の取り組みとともに、JR連合「国会議員懇談会」及び「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」との連携を図りながら、イーストユニオンの支持する国会議員の創出に取り組んでいきます。

JR東日本に関わる政策の実現や鉄道の安全問題をはじめとする様々な政策、交通政策の実現、そして民主化闘争の完遂に向けた、取り組みをしていかなければなりません。

で行きます。また、イーストユニオン地方議員団となる春日部市議会議員 井上えいじ氏及び、亘理町議会議員 小野一雄氏との連携を図りながら、地方交通での課題解決に向けて、各地方で支持する県議・市議・町議等との交流、関わりの深度化を進めていきます。

第25回参議院議員選挙については、UAゼンセンからの比例区 候補予定者「田村まみ氏」（イオン労組・国民民主党）への取り組みとし、イーストユニオンの組織総力戦で当選を勝ち取るべく、全組合員とイーストユニオン退職者連絡会とも連携し、支援の展開をしていきます。併せて、JR連合が推薦する重点候補者の全員当選に向けて、JR連合支援行動にも参画しながら、推薦候補者の当選に向けて取り組んでいきます。

JR連合支援候補予定者 比例区 田村まみ UAゼンセン（イーストユニオン支援） 比例区 石上としお 電機連合 比例区 浜野よしふみ 電力総連 比例区 森屋たかし 私鉄総連

7. 福利厚生について 8. 当面の組織運営について